

授 業 科目名	研究会	必 修	開講年次	3	単位数	2
科目区分	専門科目					
サブ タイトル	法はどのようなものであるかを考える	担当者	柳沢 謙次			
講義概要	<p>【概要】</p> <p>研究会は、自分が疑問に思ったことを、自分で調べ、考え、自分なりの考えを持ち、他の人に聴いて貰い（＝報告し）、自分の考えと他者の意見・考えと照らし合わせ（＝討議し）、自分の考えをより良きモノに練り上げる作業をする場です。その実現作業が、本研究会の討議概要と成ります。</p> <p>【到達目標】</p> <p>自分が選んだ何か一つのテーマに関して、自分の力で調べ考える力の涵養、ならびに他者に説明出来る（示せる）自分の考えを創り上げること。</p>					
履修条件	なし。（講義「法哲学」を履修することが望ましい）。					
教科書・ 参考書	<p>【教科書】</p> <p>何が法哲学のテーマと成り、問われているのか？研究会開始時にはその概括的なガイダンスを行うが、それに役立つプリントを適宜配布する。</p> <p>【参考書】</p> <p>個々のゼミ生に対して、それぞれが興味・関心を以て探求するテーマに役立つモノを、適宜、示していく。</p>					
授業内容	<p>（法哲学で問われるテーマに沿う範囲での）諸問題を、自ら解いていく方法・技法の概括的教示。＜＝問題を自分で解いていくための、自学自習の（過程での）指導＞。</p> <p>自己の考えをまとめ・報告する訓練。＜＝研究レポート作成の訓練と、他者に理解せしめるための話の訓練＞。</p> <p>報告を聴くゼミ生には、何に注意して聴くか、等々の、報告の聴き方、ならびに、質問の仕方・報告に対する自分の意見の述べ方の指導。</p> <p>最初の一・二回は、担当者が、法哲学で扱われる諸テーマの紹介と概説を行います。</p> <p>その後、ゼミ生の各自が、自分が興味・関心を抱いたテーマに関して、調べ・考え、その成果を順次報告し合います。すなわちこの研究会は、ゼミ生の毎回の研究報告、それへの質疑応答、論議の形式で進められ、最後に、担当者の講評が付されます。</p> <p>以上は大綱です。ゼミ内容の詳細は、毎年ゼミ生諸君から、この研究会に対しての希望・要望を聞いた上で、相談しながら決めていきます。何回目は何を（何月何日には何を）テーマとするか、等々は、研究会が始まってからの数回の内の、ゼミ生全員（と担当者）の相談を経て初めて定まります。</p>					
評価方法	平常点					
評価基準	上記授業内容について、此れを良く理解し、適切に表現出来た者には「A」を与える。単元の内容に付いての理解や表現に不適切な点がある者は其の程度に応じて「B」または「C」とし、単元の内容に付いての理解自体が不十分な者は其の程度に応じて「D」または「E」とする。					
その他	特になし					